

人口ビジョン

第5次基本構想・後期基本計画の前提となる、将来的な人口推計は以下のとおりです。

(1) 推計手法

人口推計では0～115歳の年齢別人口を、1年ごとにコーホート要因法を用いて武蔵小金井地区、東小金井地区、野川地区それぞれで推計し、市域全体の推計はそれらを合計しました。毎年の0歳児の人口は、15～49歳の5歳階級ごとの出生数を、各階級の合計特殊出生率に基づいて算出し、合計することで得ています。また、現時点で予定されている、再開発などの住宅開発による人口増の影響についても考慮し推計しています。

武蔵小金井地区 … 関野町2丁目、緑町3～5丁目、中町3丁目、本町、桜町、貫井北町、貫井南町3丁目

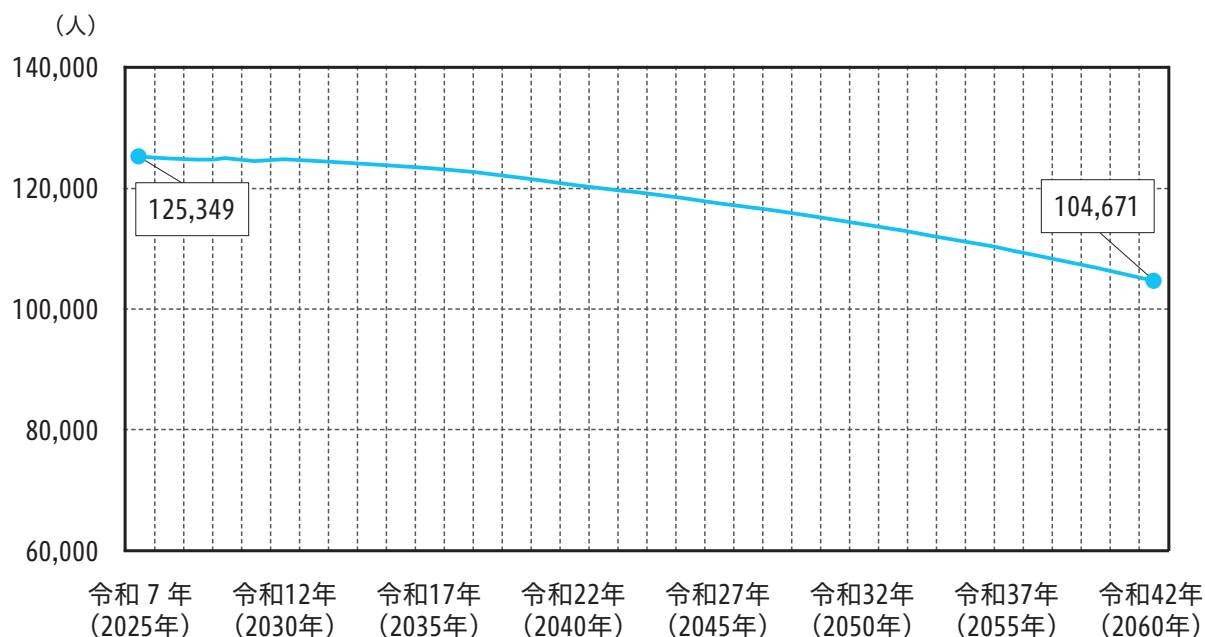
東小金井地区 … 東町、梶野町、関野町1丁目、緑町1～2丁目、中町2丁目

野川地区 … 中町1、4丁目、前原町、貫井南町1、2、4、5丁目

- | | |
|-------|---|
| ○推計期間 | 令和7年(2025年)～令和42年(2060年) |
| ○基準人口 | 令和7年(2025年)4月1日(住民基本台帳) |
| ○出生率 | 過去の実績から合計特殊出生率が1.12で期間中一定に推移すると仮定 |
| ○移動率 | 「国立社会保障・人口問題研究所」が公表している「日本の地域別将来推計人口」を参考に同様に推移すると仮定 |

(2) 人口推計

人口は、令和7年(2025年)の125,349人をおおむねピークとして令和12年頃まで微増微減が続きます。令和42年(2060年)の推計人口は104,671人となり、令和7年(2025年)と比較すると約20,700人少ない人数となっています。

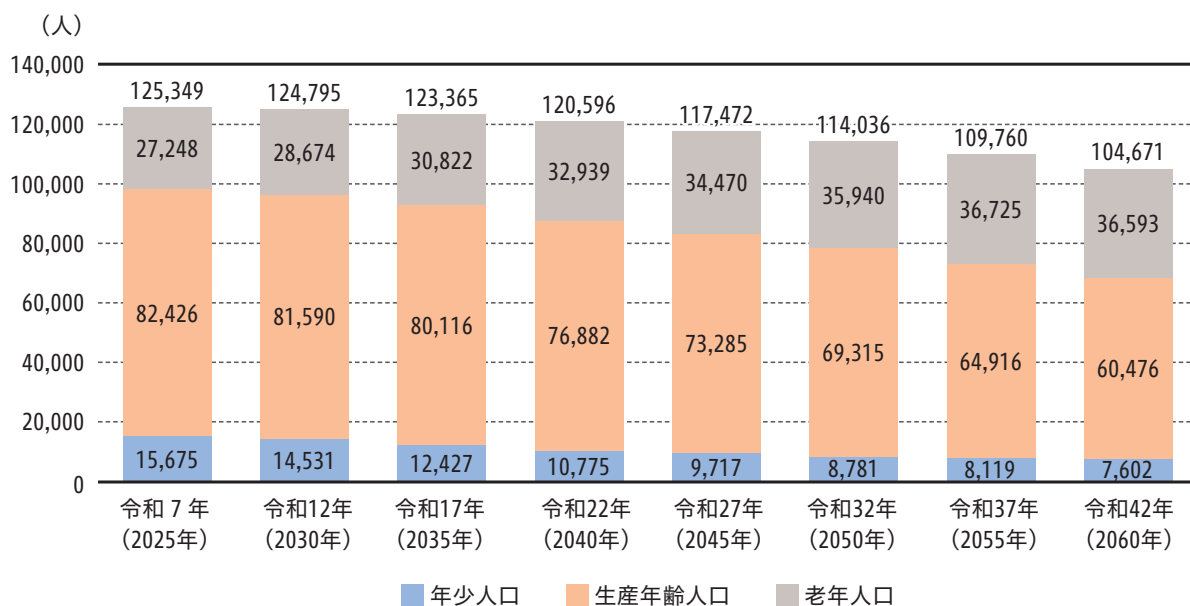


(3) 人口構成の変化

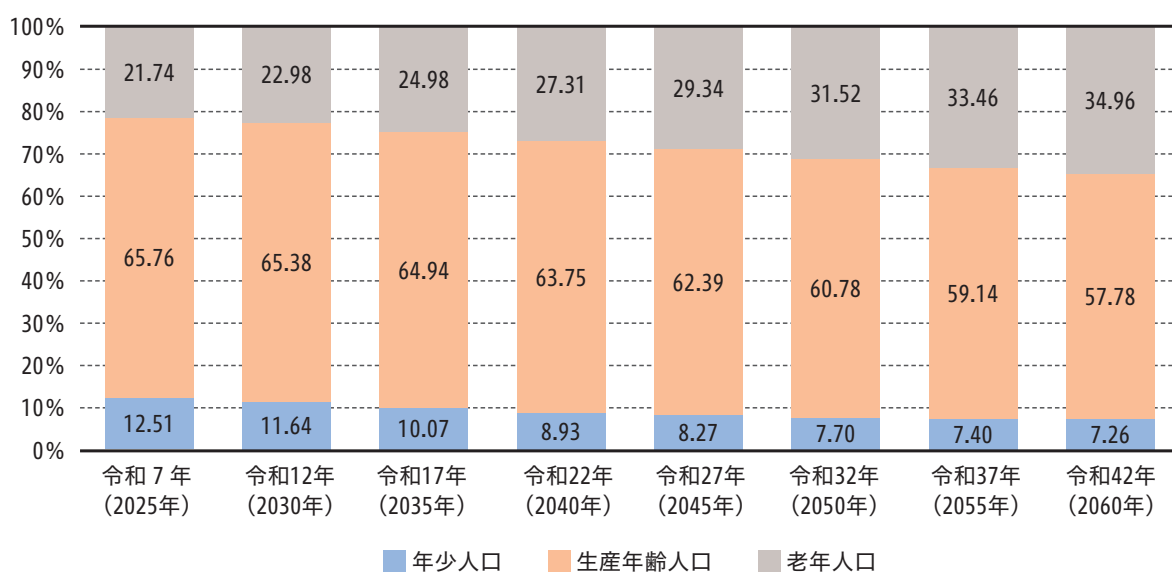
5年ごとの年齢3区分別人口の推移を見ると、0～14歳（年少人口）は令和7年（2025年）から減少傾向が表れ、令和42年（2060年）には、令和7年（2025年）から、約8,000人減少します。15～64歳（生産年齢人口）も、令和7年（2025年）から減少傾向が表れ、令和42年（2060年）には、令和7年（2025年）から、約22,000人減少します。65歳以上（老年人口）は令和37年（2055年）まで増加し、その後、減少に転じます。

年齢3区分別人口割合の推移では年々、高齢化率が上昇し、令和42年（2060年）には34.96%に達します。

■ 5年ごとの年齢3区分別人口の推移



■ 5年ごとの年齢3区分別人口割合の推移



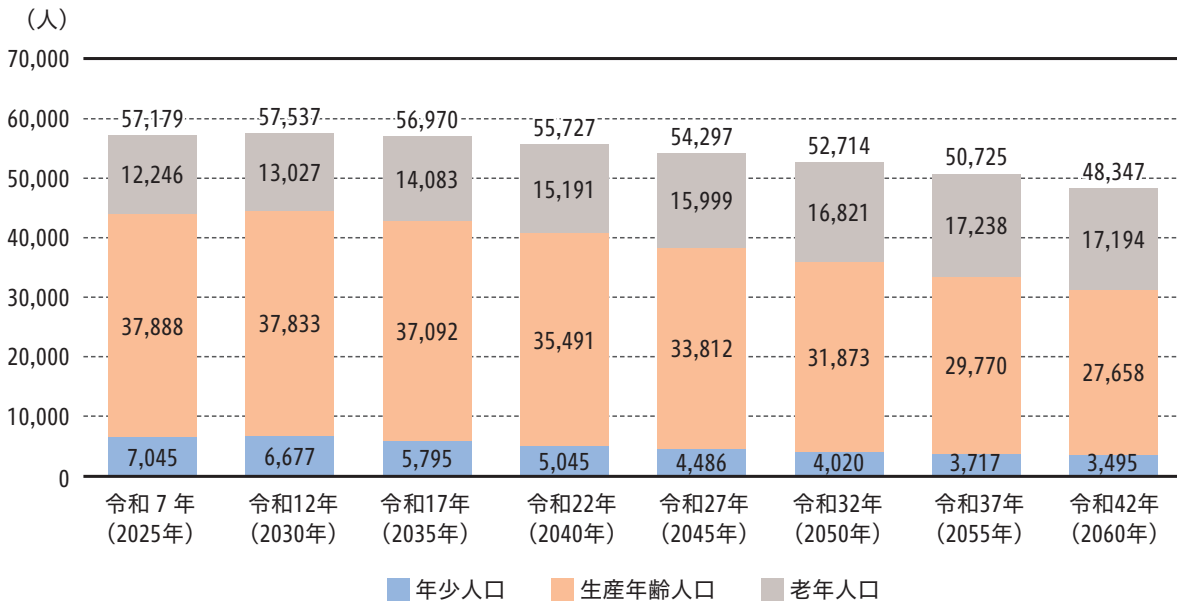
※小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

(4) 地区別の人口推計

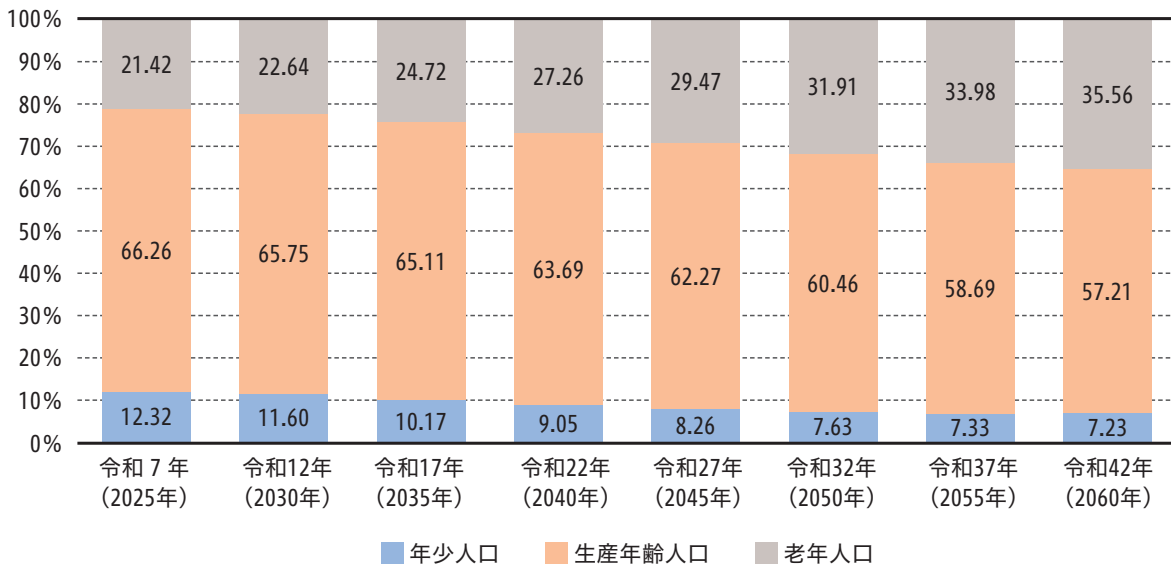
① 武蔵小金井地区

5年ごとの推移を見ると、令和12年（2030年）の57,537人をピークとして減少し、令和42年（2060年）には48,347人となります。令和7年（2025年）と比べると約8,800人減少します。高齢化率は上昇し、令和42年（2060年）には35.56%となります。

■ 武蔵小金井地区における5年ごとの年齢3区分別人口の推移



■ 武蔵小金井地区における5年ごとの年齢3区分別人口割合の推移

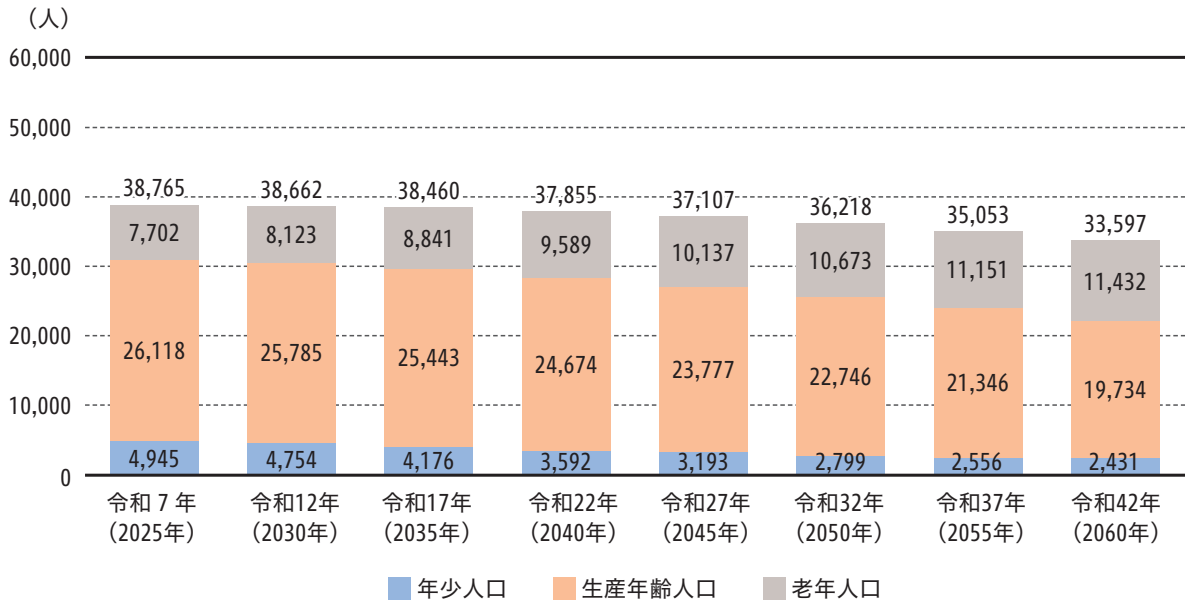


※小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

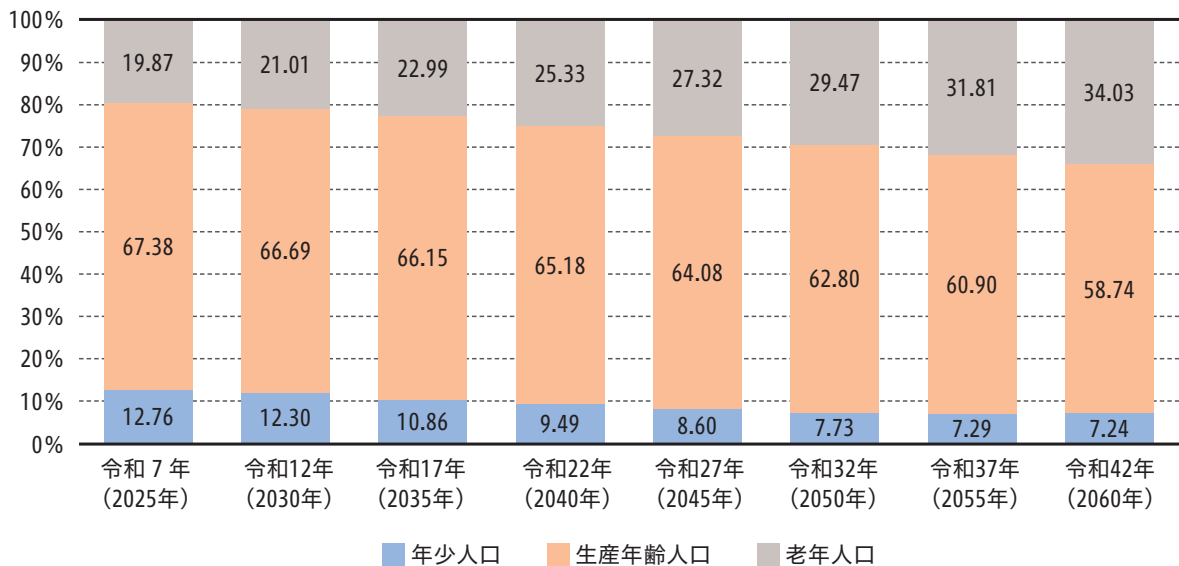
②東小金井地区

5年ごとの推移を見ると、令和7年（2025年）の38,765人をピークとして減少し、令和42年（2060年）には33,597人となります。令和7年（2025年）と比べると約5,200人減少します。高齢化率は上昇し、令和42年（2065年）には34.03%となります。

■東小金井地区における5年ごとの年齢3区分別人口の推移



■東小金井地区における5年ごとの年齢3区分別人口割合の推移

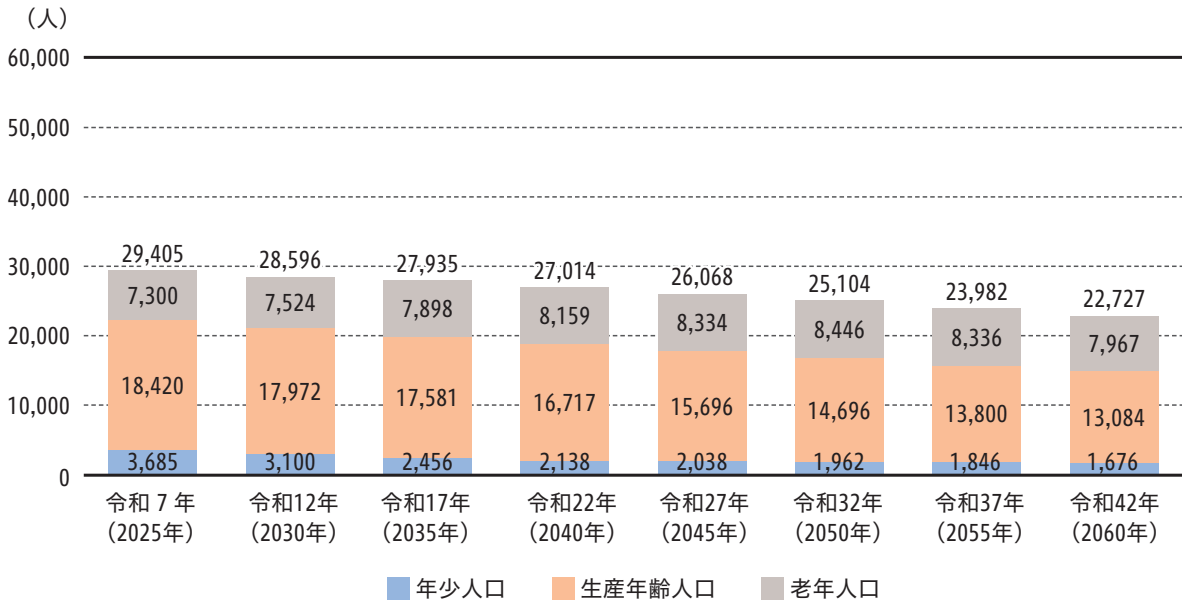


※小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

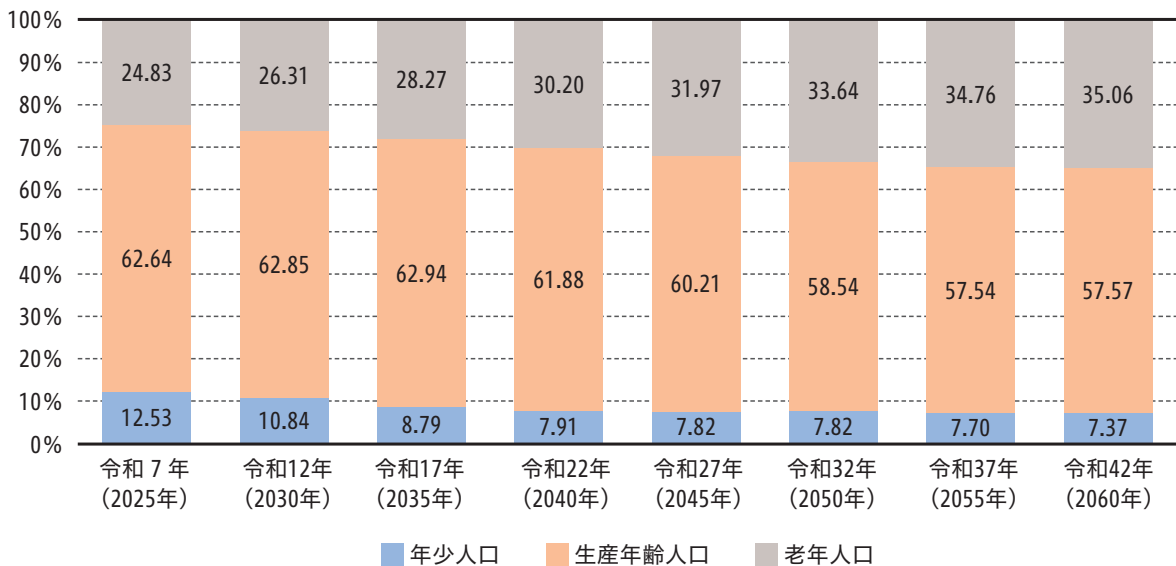
③野川地区

5年ごとの推移を見ると、令和7年（2025年）の29,405人をピークとして減少し、令和42年（2060年）には22,727人となります。令和7年（2025年）と比べると約6,700人減少します。高齢化率は上昇し、令和42年（2060年）には35.06%となります。

■野川地区における5年ごとの年齢3区分別人口の推移



■野川地区における5年ごとの年齢3区分別人口割合の推移



※小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。